

土砂災害に備える

一般的に土砂災害は、降雨や融雪で地中の水分が増して地盤が緩み、さらに長雨や強雨が続いたときに発生するとされています。常日頃から注意しておく必要があります。

土砂災害の種類

※下記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるといものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



土石流

山腹・谷底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。

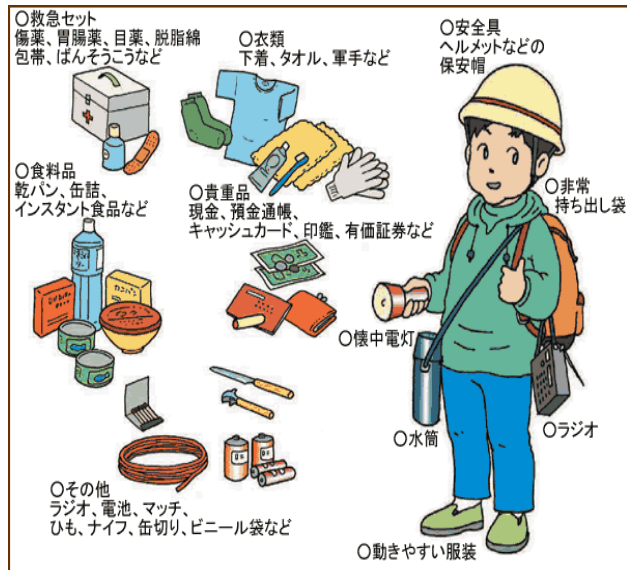


雨の降り方と災害発生状況

雨が強くなってきたら、積極的に雨量、予報、警報等の情報を入手しましょう

雨の降り方 (1時間雨量)	人が受けるイメージ	災害発生状況
やや強い雨 (10~20mm)	話し声が聞き取りにくい・ザーザー降り	長く続く時は注意が必要
強い雨 (20~30mm)	傘をさしていても濡れてしまうほど・ドシャ降り	側溝や小川があふれ、小規模ながけ崩れが始まる場合もある
激しい雨 (30~50mm)	バケツをひっくり返したように降る	山崩れ、がけ崩れが起きやすく、危険地帯では避難の準備が必要
非常に激しい雨 (50~80mm)	地面が水しぶきで白っぽくなる・滝のような雨	土石流が起こりやすく、多くの災害が発生する。都市部では地下室や地下街に濁水が流れ込む場合もある
猛烈な雨 (80mm以上)	息苦しくなるような圧迫感を感じる	大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要

非常持ち出し品



避難行動について

- ・雨風が強まってからの移動は負担も大きく命の危険を伴う場合があるので、可能な限り、天気が荒れる前に避難を開始しましょう。
- ・指定緊急避難場所等までの移動が、かえって命に危険を及ぼしかねないと判断されるような状況の場合は、近隣の堅牢な建物内の上層階などの場所への移動し、少しでも早くより安全な場所へ避難しましょう。

警戒レベルに応じたとるべき避難行動等

警戒レベル	気象情報(気象庁) 【警戒レベル相当情報】	避難情報(函館市)	とるべき行動
警戒レベル1	早期注意情報	—	<ul style="list-style-type: none"> ・災害への心構えを高める。 ・防災気象情報等の最新情報に注意する。
警戒レベル2	大雨注意報 洪水注意報 等	—	<ul style="list-style-type: none"> ・避難に備え、ハザードマップ等により自らの避難行動を確認する。
警戒レベル3	大雨警報(土砂災害) 洪水警報 等	高齢者等避難	<p>【危険な場所から高齢者等は避難】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・避難に時間を要する高齢者や障がいのある方等は危険な場所から避難する。 ・その他の人は、避難の準備を整える。または、自主的に避難する。
警戒レベル4	土砂災害警戒情報等	避難指示	<p>【危険な場所から全員避難】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・危険な場所から全員避難する。
警戒レベル5	大雨特別警報 等	緊急安全確保 (必ず発令される情報ではない)	<p>【命の危険直ちに安全確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・立退き避難することが、かえって危険である場合、緊急安全確保する。

避難情報は、災害の種別ごとに避難行動が必要な地域を示して発令しますが、地域やご家庭などの事情によって、「避難指示」を待たずに避難が必要と考えられる場合は、「自主避難」をお願いします。